

令和6年度 努力点研究について

I テーマ

自律して学ぶことのできる姿を目指した授業実践について（1年次）

～自由進度学習を通して～

II テーマ設定の理由

これまでの3年間で、ICT機器も活用した「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを目指して実践を進めてきた。実践の結果、多くの児童がICT機器も活用しながら、自分の考えをもって学習を進める様子が見られた。しかし、漠然と自分の考えをもつ児童も少なくない。また、友達の考えも知り、自分の考えに生かすことのできない児童も見られる。自分の学習状況を把握して、考えに根拠をもって学習を進めることができれば、児童は、これまで以上に、意欲的に学習に取り組むことができるのではないか。そして、それぞれの児童が友達の考えを認めて自分の考えに生かすことができれば、学習を深めることにつながるのではないかと考える。児童が学習状況を把握して自分の考えをもち、その考えに友達の考えを生かすことのできる児童を本校では、自律して学ぶことのできる児童ととらえ、こうした児童を育てる授業実践を行っていききたい。

1年次である今年度は、昨年度同様、自由進度学習を取り入れた授業を行い、教師が示した選択肢の中から自分に見合ったものを自己決定できる児童を育てたい。昨年度、自由進度学習を行った児童の様子は、「学習が楽しい」「もっとやりたい」と意欲的に取り組む姿が多くみられた。こうした、「楽しい、もっとやりたい」という思いが積み重なることで、学習に向かう姿勢が変わり、学習を深めることができると考える。また自律して学ぶことのできる児童を育てるためには、学習内容や学習方法、学習の順番など、様々児童が選択し自己決定をする場面が必要不可欠であると考えます。

III 研究の方法

I 研究の手立て

「自由進度学習の三つの型」

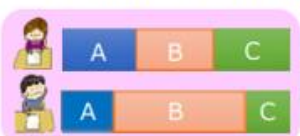
子どもに何を**選択**させると効果的なのかを考え、教師が型を選択します

① 課題選択型（興味・関心に対応）



興味・関心や自身の立てた問いなどに対応し、子どもが**課題**を選択できるようにする。全ての課題に取り組み、取り組み順を選択する場合と、いくつかの課題のみ選択して取り組む場合がある。

② 時間設定型（学習のペースに対応）



学習のペースに対応し、子どもがそれぞれの**学習活動**に掛ける時間を設定できるようにする。重点的に取り組みたい活動を明らかにして計画を立てたり、一つの活動で身に付けるべき内容の習得を確認して、次の活動に移ったりする。

③ 目標設定型（習熟度に対応）



習熟度に対応し、子どもが学習に取り組む**目標**を設定できるようにする。目標を達成するために必要な課題や学習活動に取り組むことで、基本的な学習内容の定着を図るとともに、習熟度に応じ、資質・能力を高められようとする。

(※ ①②③を基本の型としますが、それぞれの要素が関わり合うこともあります。)

2 研究の内容

(1) 授業実践（一人1実践、代表授業者1名）

- ・ 各部会に合った具体的な手立てに沿って行う

(2) 部会の進め方

- ・ 部会取りまとめの先生が日程調整を行い、部会の司会進行をする（事前・事後検討）

(3) 役割分担

- ・ 部会取りまとめの先生を中心に、部会を開催する

(4) 中間報告書

- ・ 前期実践について報告

(5) 最終報告書

- ・ 後期実践について報告
- ・ 部会の成果と課題について

(6) 発信（職：職員、児：児童、保：保護者・地域）

- ・ **職** 中間報告書・最終報告書・指導案
- ・ **保** 授業参観・学級懇談会
- ・ **保** ホームページ
- ・ **保** 学校だより

3 推進組織図

